

新平市の豫算

委員會は今十六日で終り

既報の如く市条例規則の委員会を上へて之が調査審議を終り十四日本議に附して可決の後豫算その他の案件附議に移り理事者側から詳細なる説明ありて質問をすまし同案に對する委員十五名の外各種委員会を決して散會したが豫算委員会十五名の野崎滿藏蓮沼龍輔鈴木

光吉 矢吹龍作 松崎松山
山野邊義政 川崎文治 大
谷武雄 間内正一 鈴木彌
太郎 松本徳一 大嶺庫
金古政通 吉田五平・大井
川幸隆

合併初年度に於て 平塗へ既に二萬圓

給付に恵まれる舊態一新
曾ての豫算に見合へ

市制施行と同時に小學校の電話架設を初め色々施設を改められつゝあるが目下市會の議に附されてゐる今十二年度豫算に計上せる工費一萬五千圓の小學校増築と講堂の建設並びに道路開闢の土木調査費四百圓その他既に二萬圓の支出を受け前記道路の調査計画が成れば引續いて昨年度は多額の同費を投じられる譯でこれを舊平塗村の既往に徴すれば合併以前の同村本年度豫算は二萬餘圓に止まり

で八年度及び七年度は一萬七千圓に過ぎず而かも此の中役場費は昭和七年前後に方て四千八百餘圓を要し九年度の四千二百七十七圓、十年度の四千三百五十四圓等々同村政治の現勢が如上の事實であつたものを市に合併したことによつて此の給付に遮られる同方面の今後は一躍的の發展を見られるであらう

▲警備委員金吉政通 鈴木庫左右	川崎文治 松本徳一
一 吉村安次郎 關内正二	鈴木彌太郎
▲水道委員鈴木庫左右 鈴木庄之助 菅本庄治 鈴木彌太郎 藤田榮助	
▲公會堂建設委員佐藤幸太郎 吉村安次郎 大谷武雄 吉田五平 根本品藏 酒井清 永山勇吉	
▲傳染病豫防委員高橋龜松 失吹初彌 大井川幸隆	
驛區長會繩上げ	
東京鐵道局長長崎惣之助氏の初巡視あるに先き立ち水戸源	

畫上公議ない事情のあることが窺はれ平窪の不満を感撫するべく努めてゐる本豫算の内容は委員會の調査中に屬し詳細ならざるも財源を市税に求めるものは地租の増率のみでなく營收稅等にはより以上の高率を免かれざるものゝ如く此の比較観よりすれば舊平窪にて一千七百餘圓の附加稅收入を得たるに對して今回の高課は増收僅かに數百圓に止まり同地約七百人の納稅人員に平均する負擔は大なるものではないが舊平町方部としては管收稅の課率が從來の七十三か

署庶務内勤遠藤止彌巡查福島著へ：後任平窪駐在遠藤
行はれた
に駐在所にて今回左記の異動を
特別議會を
北支事變
特別稅法施
(3)

通じる 十四、五の兩日多數兵士の 水二十貫を二回に亘つて寄贈 した

の坑夫小野治道より買受けたを
職品を買受けて帳簿に不記載
してゐること發覺し古物商取
締規則違反に觸れた

今晚は南東の風、曇
明日は南東の風、晴一時曇
(小名濱測候所)

税と憤る
満に納得出来相
ら九十九に上がれば附加
九千百九十八圓より一萬
五百七十三圓に増額し此並
千三百七十五圓の負擔加
つて大衆課稅としての負
見る場合決して平窪にの
酷なものでなく市民とし
の財政計画の實情を無視
べきではないので禍根を
ず納得されるであらうと

長軍に贈られる機会十六回
役所に寄託した
この苦熱の中を東洋永遠
平和の爲めに破邪嚴正の
をとつて活躍せらる皇室
士に少しでもお役に立て
のをとの念願からこのま
長久バンド(下帯)が生れ
した、
武運長久の四字を染上
屋さんの顔の汗にも午下
九十九度の暑熱の中で針と
ぶ看護婦達の指先にも愛
の熱情がみち～て居ます
す、出来上つた昨日の矢
日頃信仰する柴原觀音によ
達夫婦参拜して親しく話

市古の剣速の、
市品どうる御採綱下さい
やう、
廿七萬十四
平市宇長橋町特志家高木泰
に催された蠅取デーは十四
及び十五日の兩日參加二千
百九十六人の參加をもつて
獲されたが取つた蠅の數は
記三十七萬十四に達した
▲十四日參加人員一五二
名捕獲廿三萬五千六百五
八匹▲十五日一〇五八一
三萬四千三百五十二匹

古物商の不正 窃盜犯人も發覺
石城郡内郷村の官字蛭子古物
商鹽澤誠司(四〇)は同地炭礦坑
夫小野高治が附近の炭礦その
他から盗んで來た銅線二、三
百づゝを去る七月三日から
三十日に至る間に於て前後數
回に亘り極安價に購入して帳
簿に制規の記載をなさず平置
て檢査取調への結果前記小野
の盜み不發覺。(ノ)

平市各委員の 顔振決定

る驛長及び各區長會議は來
二十五日平市常陽銀行支店

木下の國二圓也は、金を託した

平町字新川町産科婦人科醫
五十嵐雄二氏は武運長久
ド二百本に左記書状を添

院
パン
て
をこめてまわりました、
達のこの赤誠お汲みとり
さいまして僅かなこの慰

私 欲問 下 石井の盜みが判り最近平署に
したが横田がこれを制規の帳簿に記載しなかつたことから



日刊便
郵休丸一ヶ月廿五
廣告料一
場所指定二十
發行兼翻印刷人牛
福島縣平市大町二三
新いわき新聞社

半島實業商

北支の皇

軍將士に

次(三)は本年四月二十四日市
内字南町の古物問屋近藤繁治

四月の泥發覺

